

### 海岸利用調査の報告

別府港海岸の海岸整備の対象4地区について、平日、休日及び祝日に海岸利用の実態調査を実施しました。以下に、結果をご紹介します。

#### <調査概要>

- 日時：平成23年 7/31(日)、8/1(月)、11/3(祝) 5時～18時  
※7/31(日)はスパビーチで20時から納涼花火大会開催。
- 場所：北浜地区1、北浜地区2、餅ヶ浜地区、上人ヶ浜地区
- 内容：時間別来訪者数のカウント

#### <北浜地区1の調査結果>

- ・北浜地区1の来訪者数は4地区の中で最も少ないが、遊歩道等がないにも関わらず、上人ヶ浜地区(円形テラス)の半数程度の来訪者がいる。
- ・来訪者の住いは別府市内が大半を占めるが、市外や県外からの来訪者もいる。
- ・来訪者の目的は散策や休憩等、または健康のためのウォーキング等の日常的な利用が大半を占めている。



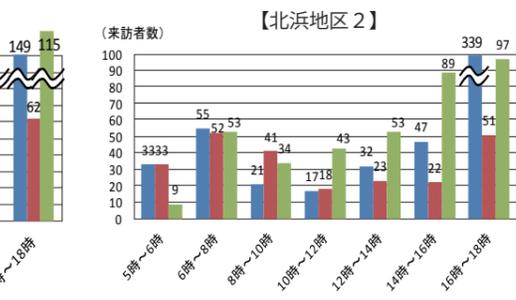
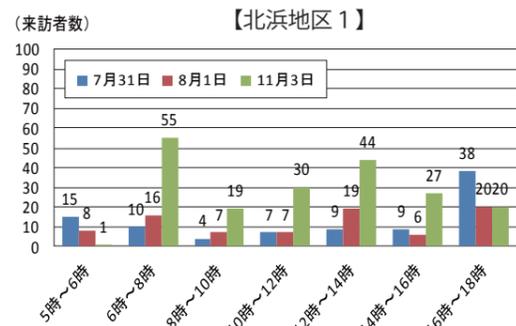
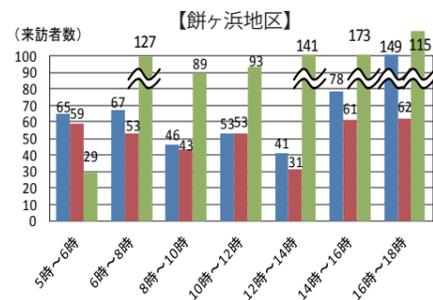
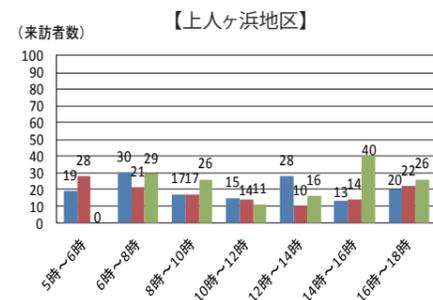
・北浜地区1は、現状では**近隣にお住まいの方を中心に、散策等の日常的(習慣的)な利用**がなされ、**郊外型の海岸**だと考えられる。

・ただし、現状でも市外や県外からの来訪者もあり、7月31日の花火大会時には来訪者数が増加しているところを見ると、**イベント時の利用等の非日常的な利用に対する潜在的なニーズ**があるものと考えられる。

#### <4地区の時間別来訪者数調査結果>



	上人ヶ浜地区	餅ヶ浜地区	北浜地区2	北浜地区1
7月31日(日)	142人	499人	544人	92人
8月1日(月)	126人	362人	240人	83人
11月3日(祝)	148人	767人	378人	196人



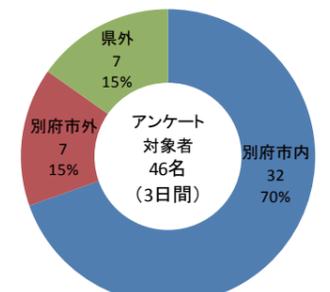
#### お知らせ

12月18日(日)13時から北部地区公民館までしこ分館にて上人ヶ浜地区のワークショップを開催します。また、北浜地区1の検討にあたり来年1月頃に第6回ワークショップを開催します。詳細は下記のホームページ等で案内致しますので、ご協力をお願い申し上げます。

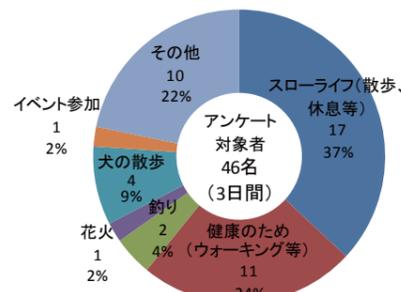
※別府港海岸の整備に関する情報は下記の別府港湾・空港整備事務所ホームページに随時掲載していきます。是非ご覧ください。  
<http://www.pa.qsr.mlit.go.jp/beppu/>



北浜地区1の来訪者(護岸上)



北浜地区1への来訪者の住い



北浜地区1への来訪の目的

# 別府里浜づくり新聞

第48号  
平成23年  
11月29日

## 第5回別府港海岸づくりワークショップ(北浜地区1)を開催しました



別府港海岸(北浜地区1)の整備計画の策定にあたり、平成23年10月18日(火)午後7時から、ふれあい広場・サザンクロスにおいて「第5回別府港海岸づくりワークショップ(北浜地区1)」を開催しました。

当日は、北浜地区1周辺にお住まいの方を中心とした14名の市民の方々と、大分県並びに別府市の関係職員が参加しました。今回のワークショップでは、これまでの検討内容と模型による一般部のデザインの説明をした後、標準断面及び平面配置についてグループ討議を行いました。

### ワークショップの内容

はじめに、事務局から高潮対策事業の事業概要と北浜地区1の検討経緯の説明、検討会で提案した護岸構造と平面配置案を紹介しました。また、一般部について、現在の護岸を撤去し飛沫防止帯を整備した場合に空間がどう変わるかということ、維持管理が必要になるということ、その場合日常の清掃などは住民の方にも協力して頂きたいこと、また、北端部、中央部、南端部などの要所部がどのような空間になるかということ、図面やCGを用いて説明しました。

次に、菅座長の司会のもと、まず9月5日に開催された第4回検討会の内容を河村委員から報告して頂きました。続いて、検討会の委員である齋藤委員(東京工業大学大学院教授)と齋藤研究室の学生から、一般部のデザインに関して、模型を用いて、飛沫防止帯部分に石積みの小段を設けたり、既存護岸を活用するなど色々なデザインのバリエーションについて説明して頂きました。

その後、参加者は2つのグループに分かれ、護岸構造と平面配置についてグループ討議を行い、討議の内容を発表して頂きました。

最後に、検討会の委員長である小島委員長(九州共立大学名誉教授)よりグループ討議の内容のまとめをして頂きました。

### <第5回 別府港海岸づくりワークショップ> —会次第一—

1. 開会
2. 委員紹介
3. これまでの検討内容説明
4. 第4回検討会の報告
5. 模型による一般部のデザインの説明及び意見交換
6. グループ討議
7. 本日のまとめ
8. 閉会



グループ討議の様子

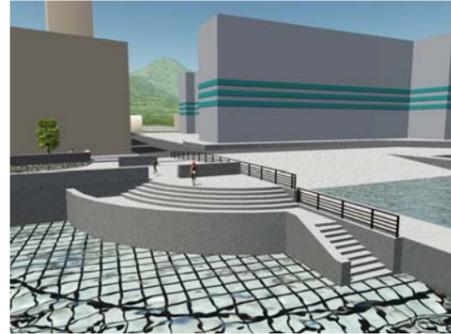
### グループ討議の結果

グループ討議では、主に以下のような意見と今後の方向性について確認されました。

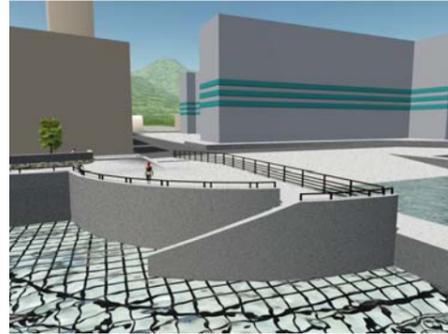
- 一般部の断面について、飛沫防止帯を設けることについては反対意見は無かった。ただし、傾斜の付け方などのデザインは、今後検討が必要である。
- 北端部、南端部については、親水性の空間やエントランスとしての位置づけなど現在の案で概ね良い。
- 中央部については、親水性の観点と落水者救護の観点の両面から、海岸部へ降りられるような階段の設置を検討して欲しいという意見があった。ただし、階段設置については、中央部は北端部に比べ波あたりが強く、防護の観点から可能かどうか検討する必要がある。
- 船溜まり部については、高潮対策事業として可能な範囲で検討する。その場合、パラペットを設置し、階段により水面に近づくことが出来るような対応を検討する。

### これまでの検討内容と討議のポイント

第4回検討会での検討内容を踏まえ、一般部の基本断面と平面配置案、今回のワークショップにおける討議のポイントを説明しました。北端部では親水性や落水者救護の観点から階段を設けることを検討していますが、護岸天端を下げる案と下げない案が考えられます。ワークショップでは初めて提示した飛沫防止帯については、海辺の環境にも適応して飛沫防止機能を発揮するとともに、整備後の維持管理を勘案しながら樹種や密度を検討する必要があります。船溜まり部については、これまでのワークショップ等で波が打ち上がるため埋立てしてほしいといった意見がありましたが、国の高潮対策事業では全面的に埋めることは事業上できないため、実施可能な整備案を提示しました。グループ討議では、これらのポイントを踏まえて討議を行って頂きました。



北端部の護岸天端を下げた案



北端部の護岸天端を下げない案

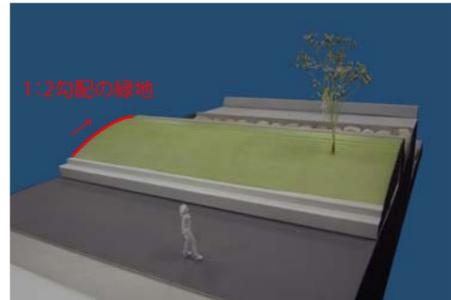


南端部の船溜まりの整備案

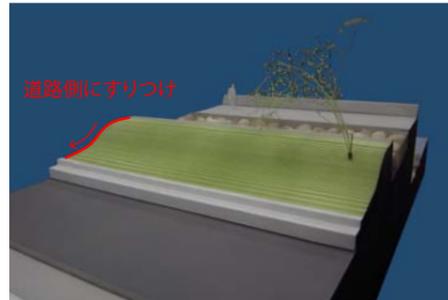
### 飛沫防止帯についての提案

飛沫防止帯の構造について、東京工業大学の齋藤研究室から提案がありました。1:2の勾配（水平距離2mにつき1m高くなる斜面）を基本とした事務局案に対して、1:2の勾配が与える圧迫感を軽減するという観点から、断面形状について検討し、それを350mの整備区間全体に当てはめた時に懸念される単調さを避けるためのアイデアが提案されました。

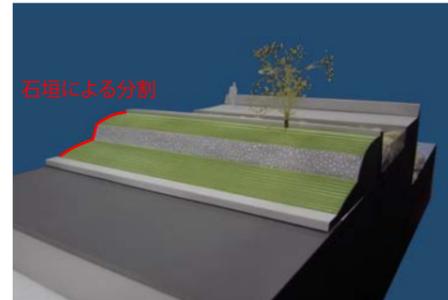
ただし、これらは事業上実施可能かどうか、高潮対策の事業目的に照らして精査する必要があるなど、今後も検討を要します。



**事務局案：1:2の勾配を基本とした断面**  
・1:2の勾配で道路側から斜面を立ち上げる案。一見よい雰囲気に見えるが、1:2の勾配はきつい勾配である。実際に正面から見ると壁のような印象を受ける。



**案1：道路側に緩やかにすりつけた断面**  
・道路側に緩やかにすりつける案。道路側から見て比較的余裕が生まれるので、圧迫感の軽減が期待できる。しかし、依然として上部に余裕がなく、改善の余地がある。



**案2：石垣を入れて分割した断面**  
・石垣（高さ80cm程度）を入れて、2段に分ける案。下段に余裕が生まれ、上段も高木を植える程度の土厚を確保できる。しかし、これも350m全体に当てはめると、単調である。

### 単調さを軽減し変化を付けるアイデア

・飛沫防止目的のため、事業上単純に園路を設けることは出来ないが、階段やスロープと組み合わせ、石垣を引っ込めたり、出したりすることで変化をつけることが考えられる。  
・既存のコンクリート護岸の一部を残してアクセスと組み合わせることで、護岸上の眺めを活かすことが考えられる。背後の建物の用途やプライバシーに配慮する必要がある。



階段やスロープと組み合わせる案



既存護岸の一部を残して活用する案

### グループ討議の内容

事務局の説明および齋藤研究室の提案を踏まえ、参加者には2つのグループに分かれて、グループ討議を行って頂きました。各グループの意見の概要は以下の通りです。また、グループ討議の最後には、各グループの代表者に、討議内容を発表して頂きました。

#### Aグループの討議内容

##### 1. 平面配置と要所部

###### ○海に降りる階段の設置について

- ・親水性の観点から、北側だけでなく中央部にも海に降りられる場所を設けて欲しい。
- ・安全管理の観点から、落水者が上れる階段を北端部に加え中央部にも設けて欲しい。梯子を設けているが、階段のほうが親切である。
- ・この辺りも昔は砂浜があり、自由に水に触れることが出来た。海に触れることが出来ない整備ならば、頑張れば海に触れることができる現在の方が良いくらいとも思ってしまう。
- ・チェーンなどにより常時は立入禁止として利用させないことでよい。自己責任での利用の可否を考えてもらうべき。看板等による禁止事項の表示は、出来るだけしないで欲しい。

###### ○船溜まりの整備案について

- ・防災や利用されていない現状から、船溜まり部は埋め立てて欲しい。埋め立てが難しいのであれば、パラペットの前出し幅を出来る限り広くして欲しい。
- 全面的な埋め立ては当該事業では不可能なため、大分県や別府市とも協議の上、別の事業での実施を検討しなければならない。
- 事業で出来る前出し幅は3mが限界である。

##### 2. 一般部の断面構造と飛沫防止帯

###### ○飛沫防止帯の形状、背後空間のイメージについて

- ・飛沫防止帯のデザインは、齋藤研究室の提案のように出来れば良いと思う。特に、単調な構成ではなく、園路や平場がアクセントとなるようなデザインが良いと思う。

###### ○飛沫防止帯の樹種、配置について

- ・背後マンション居住者のプライバシーのため、水叩き部の利用者との視線が交錯しないよう、低木を植えて目隠しにしてはどうか。



Aグループの発表の様子

#### Bグループの討議内容

##### 1. 平面配置と要所部

###### ○海に降りる階段の設置について

- ・水に降りる階段を中央部に作れないか。
- ・護岸天端を下げた案も親水性というには高いが、見た印象はよい。しかし、安全性に不安がある。
- ・台風時に海を見に行き子供が事故にあったことがある。台風の最中はいないが、台風が引き出すと見に来る人がいる。
- ・北端部は台風でも波がこないところである。一方、中央や南端部は波が来る。
- ・北端部は潮が通らないので魚も通らず、海藻も生えない。漁業にとって利用価値の低い水域である。そこで遊べるようにするのは問題ない。

###### ○船溜まりの整備案について

- ・船溜まりは水の入れ替えがないので汚い。
- 水はきれいになっており静穏度も高い。
- ・今年で終わるが、エビを放流する際に使っている。
- ・本事業では埋立てられないと聞いている。地元としては埋めて欲しい旨を大分県や別府市に訴えたい。
- ・漁師としては、船溜まりは要らないとは言えない。

##### 2. 一般部の断面構造と飛沫防止帯

###### ○飛沫防止帯の設置と維持管理について

- ・景観を考えると飛沫防止帯はよい。
- ・ただし、地元は高齢者ばかりで人がおらず、維持管理は難しい。管理の仕組みは今後行政と詰めていくべき問題である。できれば行政で行って欲しい。

###### ○飛沫防止帯の樹種、配置について

- ・樹木が密集しているとゴミが溜まりやすい。たくさん植えるのは問題である。
- ・樹種は、常緑樹でないとし落ち葉が出る。花が咲くものも花びらが落ちる。オリーブの様な実がなるものは、実を取りに来る人が出てくるため体裁が悪い。
- ・昔の海岸線の植生を考えるとクロマツがよいのではないか。船から（海から）見ても松はよい。また、掃除もしやすいのではないか。昔、別府の海岸線に松があった時、特段の手入れをしていなかった。

###### ○飛沫防止帯の形状、背後空間のイメージについて

- ・齋藤研究室が提案する石垣を入れて分割した形よいのではないか。
- ・北端部では背後居住者のプライバシーに配慮する必要がある。



Bグループの発表の様子